

2015年度後期 「労働と生活」

第6回 (2015.11.12)

職場の課題とその取り組み 職場の中の青年活動

谷口拓平 (連合山形青年委員会 事務局長)

1. はじめに

皆さんこんにちは。連合山形青年委員会で事務局長をしております谷口拓平と申します。よろしくお願いいたします。

講義の内容に入る前に、若干私のプロフィールをお話したいと思います。出身は宮城県仙台市で年齢は27歳となります。連合山形青年委員会で事務局長をされており、職場は労金として知られる東北労働金庫という金融機関で、2010年に採用されました。採用当時、初任地は宮城県にあります大河原支店という所で、昨年4月に山形支店に転勤して参りました。組合役員歴については、東北労働金庫労働組合で青年部と申します、若手の組合員で構成する組織の幹事という役職に就いておりました。現在、仕事では営業を担当しております。あまり人前で話すことは無く講師としてアマチュアですが、よろしくお願いいたします。

2. 連合山形青年委員会について

始めに連合山形青年委員会をご紹介します。まず、青年とはどういう人達のことを言うのでしょうか？ こういう人達じゃないかなという考えのある人？ 前の方、青年ってどういう意味ですか？

(大学生からの発言)「大人のなかで若い人」

大人のなかで若い人、そうですね。実際に辞書を引きますと、「17、18歳から20歳代までの若者」と書かれています。また、辞書とは別に連合山形青年委員会会則という規約には、概ね35歳までの男女組合員で構成すると規定しており、青年委員会というのは男性女性にとらわれない委員会のことを言います。

スライドに入りますが、1989年に連合山形が結成されまして、山形県内唯一のナショナルセンターと言われる地方組織となります。その2年後の1991年に、連合山形青年委員会は結成されました。結成の目的は、スライドに記載のある通り「青年の持つエネルギーを積極的に引き出し、青年自らの自立精神の発揮、豊かな人間形成の高揚、創造性の啓発、社会を担う一人としての自己形成などを図りながら、連合山形の組織強化・発展と連合山形を担う青年の育成をめざすこと」を目的としております。

3. 青年委員会の取り組みに関する考え方

ここからは、青年委員会の取り組みに関する考え方についてです。はじめに、これまでの経過と現状についてお話をしたいと思います。1989年連合結成の直後、青年組合員は当時のナショナルセンターの枠を越えて交流を行っておりました。その交流を通して相互に理解し合うことの意義は大きく、「連合ユースラリー」と称して大規模な交流行事を開催しておりました。私も「連合ユースラリー」もしくは「連合ユースフォーラム」といった集会に昨年参加して参りましたので、こちらについては後ほど触れたいと思います。しかしながら1991年バブル崩壊後、労働組合を構成する組合員は減少していきます。何故かと言いますと、バブル崩壊後から非正規雇用の労働者の割合が増加していったという雇用構造の変化と、企業の業績低迷ということで労働組合への参加率が下がってしまったこと、また労働組合の数も減っていったことが主な理由だと思われます。

ところで皆さんはアルバイトをされていますか？ 今アルバイトをしている人の中でアルバイト先に労働組合が有るか無いか知っているという人？ なかなかいらっしやらないですね。アルバイト先を決める理由の

一つに、労働組合が有るか無いかを考えている方はなかなか多くないと思います。パート・アルバイトといった非正規雇用労働者についても、現状やっと組合に加入できるような状況にはなりつつありますが、実際はまだまだ正規雇用の労働者が労働組合の中心となっている現状にあります。最近ニュースでも話題になっていますが、「ブラックバイト」って聞いたことありますか？ 聞いたことあるよという人。たくさんいらっしゃいますね。ブラックバイトの増加から学生が社会人になる前に労働組合を立ち上げる例も出てきております。

話を元に戻しますが、バブル経済の崩壊後、青年層組合員も数が少なくなってきたことによって青年層活動についても見直しが行われました。最初は連合本部において青年委員会活動を行っていましたが、連合本部の青年委員会を廃止して、今度は各都道府県にある連合の青年委員会に、段々と活動が委ねられました。また、連合単位から今度はスライドに専門用語で「単組、支部、分会」という専門用語が出てきますけれども後ほど解説します。連合単位から各構成組織、単組、支部、分会毎へ職場に近い単位で青年委員会の活動を、青年層組合の行うように段々移行しつつあります。

同時に多くの企業で新入社員の採用を控えていたために新入組合員の数も減り、各職場での青年組合員の人数も全体的に減少しました。ちょうど中高年層がリストラされました職場では、20代から30代といった若手社員の業務量が増えたことで仕事上での負荷も高まりますし、またこの年代というのはちょうど組合の青年活動を現場で支えるリーダーともなりますので、青年リーダーとしての組合活動に対する時間的、精神的な負担も以前よりも大きくなってしまいました。

では先ほどスライドの中段に出てきました「用語解説…産別、単組、支部、分会について」についてお話します。労働組合の良くないところは言葉を省略してしまうところです。スライドにもありますが、連合山形の下に産別、単組、支部、分会と言ったのは労働組合語となっています。連合山形の下「産別」は産業別組織または構成組織と言ったりもしますが、産別というところは同じ産業に属する企業別の労働組合が加盟しているところとして、主な活動としましては産業全体に共通する労働条件であったり、産業施策などの課題について取り組んでいるところです。産別の下「単組」というのは、単位組合または企業別組合と呼んだりもしますが、職場内での労使交渉、労使協議を通じて労働条件の改善または企業の行動チェックだったり、組合員へのサービス活動を行っています。「支部」「分会」というのは、単組よりもより職場に近づいた下部組織のことで、会社で言う支店、部署単位のことを言います。

以上のことを受けまして、活動範囲も縮小されたことで職場や企業、産業の枠を越えた出会いや交流の場も少なくなり、青年委員会の魅力も半減してしまいました。こうして青年層組合の活動に参加メンバーも固定化されてしまい、または企画もマンネリ化されて、組合活動の中での予算も削減されてしまいました。この悪循環によって青年活動を通じた人材の発掘と育成について、現在困難状況にあります。実際、青年層組合員のリーダーともなっている人は、行事を企画してもなかなか参加者が集まらない、青年活動の意義が評価されないといった悩みを抱えている人もいます。

地方連合会の青年委員会活動ということで、青年委員会役員が職場との調整が付けられずに年間行事に参加できない、定例の幹事会という青年委員会役員が集う会議がありますが、そちらに参加できないという声もあげられております。また専門用語ですが「非専従」と申しまして、組合業務専門に従事していない人、従事していない青年リーダーに、多忙な業務によって職場から抜け出せられないといった状況も十分に踏まえたうえで、産別、構成組織を代表して連合活動へ協力をお願いしたいという期待が寄せられております。

各組織においても組合活動が困難な状況にありますが、それぞれ工夫を凝らして青年活動を絶え間なく続けてもらっております。労働組合の目的というのは、働きやすい職場環境を作るための良好な人間関係を形成するといった目的に沿って、若い組合員が組合活動に参加するきっかけ作りの場と、組合の次代を担うリーダーの発掘と育成の場を青年活動の意義を組織的に位置付けることによって、職場でのイベントや研修会・セミナーなどを企画・実施しています。地方連合会の青年委員会も定期総会を開催しまして、年間活動を決めて様々な取り組みを展開しています。ちなみに連合山形青年委員会も10月30日に定期総会を行い、今期の活動方針について決めております。

年間活動についてですが、地域貢献、福祉・ボランティア、環境問題、男女共同参画、災害支援、政治参加、平和運動、国際問題といった幅広いテーマで学習会、交流イベント、ボランティア活動、スポーツ・レクリエーションを開催しています。これらの取り組みというのは、青年委員会が力を合わせて企画・実施していくこ

となので、その構成組織の枠を越えた仲間づくり・ネットワークづくりが実践されていることとなります。

次に「働く青年層を取り巻く状況」についてお話しします。先ほどの経過でも若干お話ししましたが、1991年頃のバブル崩壊後、多くの職場で50代のリストラに伴う年齢構成の変化であったり、同じ職場に様々な雇用形態、例えば正社員であったり契約社員、派遣社員、アルバイトといった労働者が働くようになりました。また残業代といわれる時間外賃金を抑制しようとして起こってしまう不払い残業などもあり、働き盛りの青年層組合員の長時間労働も常態化してしまいます。さらに人事制度については、成果主義賃金に段々と移行されてしまい、職場内で協力体制が得られない、コミュニケーションが取りにくいといった状況も生まれました。仕事における将来的な希望が描きにくいということでメンタル面でのうつ病といった疾患も増え、このような状況のなかでの過重労働、過労死となるケースが増えてきていました。職場での仲間意識、先輩・後輩関係などの人間関係も希薄になってしまい、精神的なストレス増大に伴うパワハラも起きるなど深刻な状況となっております。

一方で、職場に労働組合がないといった人達については、どのような状況になっているのかと申しますと、正規社員と非正規社員の格差が生じていることで、年収や生涯賃金についても段々と差が広がってきています。また非正規社員と言われる労働者は就労形態そのものが不安定でして、将来に向けた人生設計も描きにくいだけでなく、結婚・出産を躊躇する人も多くて少子化問題の要因となっております。勤務先に労働組合がない、あるいは雇用形態が非正規だということで組合に加入できない未組織の労働者は、労働者として基本的な権利を守ってくれる組合が無いがために会社側から一方的な労働条件の引き下げ、正当な理由のない解雇がされる状況にありまして、連合にはこういった相談も多く寄せられています。非正規の労働者は私の周りにもおりまして、身近な仲間に労働組合の青年組織として目を背けるわけにはいきません。

寄付講座の第1回のなかで連合山形岡田会長から講義があったかと思いますが、11月5日ちょうど1週間前に連合山形定期大会が開催されまして、「ストップザ格差社会！ すべての働くものを連合の輪へ「安心社会」を切り拓こう！」というスローガンの下、働くことを軸とする安心社会の実現について活動方針が決定されました。青年委員会もこの方針に基づいて活動しています。ただ年々労働組合の組織率については下がっているなかで、実は労働組合の組合員というのは実際5人に1人もおりません。勤務先に労働組合が無いという労働者のためにも、組合を結成することで仲間を増やして労働条件・労働環境の改善を図ること、また組織拡大の取り組みが最重要課題となっております。

では青年層の労働者が労働組合の必要性についてはどう感じているのかと言いますと、2005年のデータになりますが、連合に加盟する労働組合の青年組合員を対象に行ったアンケートの結果で、回答者の95%が「労働組合は必要だ」と回答しています。その2年後、連合総研が行った調査については、青年層を対象に行ったアンケートですが6割を超える働く青年層が労働組合の必要性を認識しております。この調査では職場に労働組合が有るか無いかについて、関係なく行われました。こういった青年層の声を反映させて、若者ならではの感性を活かして活動していくことが我々に求められています。

2003年に連合の外部組織である連合評価委員会といい、主に弁護士や東大教授、日本総研理事長で構成している組織ですが、その最終報告では「若者、女性が生き生きと活躍できる組合活動でないと、将来性はない」と指摘を受けております。同年、連合ユース・プロジェクトでは青年活動を進める4つの目的を明確化しました。それは、労働運動を担うリーダーの育成、仲間同士の交流・ネットワークづくり、青年が抱える特有な問題の把握と解決、労働運動を通じた社会活動・国際連帯です。

4. 青年活動の重要性

青年活動の重要性その1としまして、職場の活性化に果たす役割が挙げられます。連合山形青年委員会は活動テーマを「学習と交流」と掲げております。各職場での行われる青年活動というのは、レクリエーションや交流イベントも多くありますが、そういった活動を「単なる遊び」と捉えて欲しくありません。どのような業種、職種においても職場の人間関係が円滑なほど、情報の共有化や効率化の面からも組織としての力を発揮するということ、なにより労働組合がめざす働きやすい職場づくりについて、青年活動は重要な役割を担っております。労働組合だけではなく、経営者の間でも職場内のコミュニケーションや人間関係の重要性が改めて見直されており、そういった意味からも青年活動が果たす役割、青年活動が職場で果たす役割の重要性を認識す

る必要があります。

青年活動の重要性その2はリーダーの発掘と育成です。青年リーダーは日常的に組合員とコミュニケーションの中から信頼関係を築き、組合員から組合活動に対するニーズを聞き取る役目があります。活動の企画と運営を行うにあたっては様々な手順が必要でして、皆さんも大学生生活のなかで課外活動でも経験があったりすると思いますが、行事の企画、実行委員会を立ち上げて参加者の募集・勧誘、事前準備、外部との調整、実施、評価・反省と記録などの手順が必要となります。こういった経験を積み重ねることで、自然と組合活動のノウハウも蓄積され、職場においても人間関係においても信頼されるリーダーとなります。その信頼されるリーダーから組合役員を発掘することになります。

青年活動の重要性その3として、仲間づくり・ネットワークづくりです。青年活動の中では、みんなで力を合わせて達成感と感動を多く味わう場面があります。このような場面を20代、30代で経験することの意義は大きく、そのなかで生まれる仲間意識や連帯感というものが労働組合の原点となっております。そういった青年活動の体験から個人の生き甲斐にもなり、労働組合の活動に参加する目的を明確にしていって今後の活動についての意欲向上にも繋がっていけばと思っております。また、仲間づくりの輪が職場、企業、産業、地域を越えた連携であった場合、そういった人的なネットワークは個人にとっても組織にとっても大きな財産となります。労働組合として青年活動を通じた出会いと仲間づくりの機会を意図的に作り上げていく必要があります、特に青年委員会にとっては全国及び全産業にまたがるネットワークづくりとして、重要な役割を担っております。

5. 連合山形青年委員会の活動

ここからは青年委員会の具体的な活動について紹介していきます。社会に出て間もない組合員というのは、物の見方や考え方を養っていく必要があります、自信と確信をもって情勢に対して自分の意見を発信していく力を持続させていく必要があります。世の動きに対しておかしいと思うこと、仕事で苦しい思いをしている時にお互いに助け合う仲間をつくることといったことがとても大切で、青年委員会としてはそのために学習と交流の2本柱を活動の中心に添えてあります。学習と交流のうち、まずは学習の面から連合または青年委員会の活動の紹介をしていきます。

6. 学習活動の紹介

学習活動は主に1年間に3つあります。①スプリングアクション、②連合東北ブロック男女平等参画推進フォーラム、③2015 男女共生集会を紹介していきたいと思っております。

スプリングアクションとありますが、春闘という言葉を知っている人？だいたい聞いたことがあるようですね。春闘というのは簡単に説明しますと、春先に会社で昇給や昇格が行われることに合わせて労働組合が従業員、組合員の勤務待遇を更に向上させようと会社に申し入れを行います。具体的には交渉を行うにあたって会社への要求項目を決定し、会社の経営側と話し合いの場を設けることとなります。要求を行った後、会社から回答が来ますが、希望通りの回答を得られることもあれば、逆に厳しい回答を受けることもあり、春の闘いということで春闘と呼んでいます。青年委員会ではスプリングアクションと称した、春闘情勢の学習会を行っております。スプリングアクションで第1部に春闘決意表明ということで、4つの組合の代表者から春闘での青年層組合員としての要求項目を発表するなど、参加者全員で意識高揚を図っております。スプリングアクションの第2部については、青年委員会と女性委員会合同でデモ行動を行いながら山形市民に春闘を訴えました。スプリングアクションの第3部については、今年行われました山形県議会議員選挙における連合山形の推薦候補者の勝利に向けて、青年委員会でもンテディオ山形の応援歌を替え歌にしてエールを送りました。写真は若干小さいですが、ステージの所で青年委員会役員が議員さんと並びメガホンを掲げてエールを行っております。この選挙の結果については推薦候補者全員が当選を勝ち取ることができました。ちなみに昨年のスプリングアクションでは、派遣社員の労働環境問題と解雇の金銭解決について、寸劇を行いながら私達が直面する労働法制の課題を分かりやすく学びました。

学習活動の2つ目は連合東北ブロック男女平等参画推進フォーラムについてです。このフォーラムは男女平等社会の実現についての理解を深めるために毎年東北ブロックということで、東北6県持ち回りで開催している集会となります。今回は山形県の天童ホテルで行われまして、私は昨年の秋田県で開催されたフォーラムか

ら参加しております。このフォーラムの中では政府が掲げる女性の活躍促進、イクボスの講演、コミュニケーションスキルを上達させるための講演がありました。男女平等参画推進フォーラムは女性の活躍促進における男性の役割を認識できて、仕事・家庭を両立するために必要な考え方を学ぶことができました。一日目にイクボスの講演とありますが、イクボスという言葉聞いたことがあるよという人。ちょっといらっしやいますね。イクボスというのは、職場で共に働く部下・スタッフの仕事と生活の両立を考えられて、またその人のキャリアと人生を応援する上司のことでして、上司自身も組織の業績も結果も出しつつ、自らの仕事と私生活を楽しむことができる人のことを言います。

学習活動の3つ目は、男女共生集会です。男女共生集会は連合山形が開催したもので、今年はワークライフバランスについて学習を行いました。ワークライフバランスと男女の区別なくその個人が仕事上の責任を果たしつつも結婚や育児をはじめとする家族形成の他、介護、キャリア形成、地域活動への参加など個人・家族がライフステージに応じた希望を実現できるようにすることを言います。先ほども出ましたが最近耳にするようになってきましたイクボスについての講演もありまして、「良いイクボス」と「ダメなイクボス」についてグループで討議を行い、写真にある通り全体発表を行っております。青年委員会についても「誰もが働きやすい職場づくり」に向けて、早期の男女平等社会の実現を目指して取り組んでいます。

7. 交流活動の紹介

楽しそうな写真が出てきました。次からは交流活動を紹介していきます。交流活動も学習活動と同様に年間に主に3つ開催しております、冬の「スキー・スノーボード学習交流会」と、夏の「連合山形ボウリング大会&ビアガーデン交流会」と「連合山形青年交流集会」を開催しております。

1つ目「スキー・スノーボード学習交流会」については、蔵王温泉スキー場で開催しました。学習交流会の最初はスキーとスノーボードのグループにレベル別に分かれて、そのグループの中からインストラクターを決めて初心者にも丁寧に教えつつ最初は滑りながら交流を図ってもらいます。交流会後については夕方から学習会に入ります。今年については、連合の成り立ちや統一地方選がありましたので、公職選挙法について問題のない行為、違法となる行為について講師の方を招いて講演をいただきました。講演後は分散会を行います。様々な業種の参加者と職場実態や生活実態についての意見交換を行ってもらい、分散会の班ごとに春闘前ということで春闘の要求づくりの体験をしてもらいました。昨年19人の参加から今年は41人の参加と増え、日中はスキー・スノーボードを楽しんで夕方から学習会を行っていることで、眠い目を擦りながらも皆さん熱心に学習についても頑張っていたようです。

交流活動の2つ目については「連合山形ボウリング大会&ビアガーデン交流会」です。ヤマコーボウルを会場とし、今年は56人の方々から参加をいただきました。ボウリングのチームについては幅広い交流をしようするため、敢えて参加者の組合が別々となるようにチームをシャッフル編成しました。当日初めて顔を合わせた人が多い中でも、ストライクやスペアという時にはチームメイトでハイタッチをとってもらおうといった場面も見受けられました。ボウリング終了後は会場をヤマコーホールに移して、ボウリングの結果から表彰式を兼ねたビアガーデン交流会を行いました。交流会についてもボウリングのレーン毎に着席をしてもらって交流を深めることができました。

交流活動の3つ目。「連合山形青年交流集会」です。この青年交流集会というのは山形県内を6つのブロックに分けて、各ブロック持ち回りで開催している宿泊の行事となります。ちなみに6つのブロックというのは、山形・北西村山・新庄・酒田・鶴岡・置賜の6ブロックです。今年は北西村山管内の朝日町にありますAsahi自然館で行い、参加者は全員で36人でした。1日目については業種の異なるメンバーでグループを組んで6グループで分散会を行ってもらい、自分の職場のなかで抱える現状の悩みや問題点、改善点について話し合いを行いました。分散会後は参加者全員でバーベキューを楽しみ、2日目については会場を朝日町役場に移してリース作りの体験を行いました。リース作り体験について、最初は乗り気ではなかったものの、始まると實際頭を悩ませながら思い思いの作品を作り上げて自慢し合っていました。ちなみに昨年の青年交流集会では、山形市内の福祉施設でボランティア活動を行っております。

8. その他の活動紹介

その他の活動としては、メーデーや投票に行こう街頭行動も行っております。皆さんはメーデーという言葉を知っていますか？ 聞いたことがあるよという人？メーデーとは労働者の祭典の日で労働者が団結して権利を要求する日です。起源は1886年5月1日にアメリカの労働者が8時間労働日を求めてゼネストと言われる大規模なストライキを行ったことです。山形県中央メーデーについては山形市の霞城公園で開催され、青年委員会では「探して、謎解き、宝TORU」といったクイズ形式のウォークラリーを企画しました。1チーム3人で構成してもらい、配布した地図を頼りにチームは会場内のチェックポイントを探しまわってクイズに答えながら、制限時間内にクイズの正解数を競いました。上位のチームには表彰もありましてチェックポイントを探し、難問に苦戦しつつも大いに楽しんでもらいました。

次に「投票に行こう街頭行動」を紹介します。青年委員会の活動のなかに政治活動への参加があります。私たちの政策を押し進めるための国政や県政・市政に活かす活動です。今年は第47回衆議院議員選挙、第18回統一地方選挙、山形市長選挙など各種選挙がありました。その時に投票に行こうと街頭に出て「働くことを軸とする安心社会の実現」を山形市民の皆さんに呼び掛けを行う取り組みです。来年については参議院議員選挙もありますので、皆さんも投票に行きましょう。

講義の序盤に後ほど触れますと言った「連合ユースフォーラム」について、昨年参加して参りましたユースフォーラムについてご紹介したいと思います。札幌市で開催され、全国規模の集会で参加者は100人を超えました。最初にアイスブレイクと言われる緊張をほぐす為のゲームから始まり、その後はグループを組んで今後の新しい連合活動について討議を行い、発表を行いました。グループ討議も2日間かけて行い、1日目については懇親会もあり大いに交流することが出来ました。こうした全国規模の集会というのは、連合ならではのスケールメリットを活かしたという特徴があります。

9. アイスブレイクとクイズをしてみよう

アイスブレイクをしてみようということで皆さんにここからゲームをしてもらおうと思います。前の方から資料を配りますので、後ろまで皆さん配布をお願いします。それでは手元に「無人島SOS」の資料が行き渡ったところでアイスブレイクをしてみましょう。

「船に乗って旅行中のことです。ある日、大きな嵐がやってきて、あなたの乗った船が、こなごなに壊れてしまいました。あなたは、壊れた船のかげらにつかまって、小さな無人島にたどり着きました。島には、食べ物と水はありますが、他には何もありません。島で生き抜いていくため、または島から脱出するためには、いったいどんな物が必要でしょうか。次の中から、あなたがもっとも大切だと思うものを8つ選んで、上位から順に番号を記入して下さい。理由も埋めて下さい。」ここで若干時間を取ろうと思います。15時35分までには始めたいと思いますので、それまで皆さん取り組んでみて下さい。

だいたい回答できましたか？

島で生き抜いていくために必要な物8つとその理由をあげてもらいます。それではできたところまで結構ですので発表してもらいたいと思います。発表してもいいよという人？発表お願いしていいですか。

(受講生の発表)「1がマッチ。理由は火が一番必要だと思います。2番目が鍋。まずはご飯を食べること。3番目は薬で体調管理のため。4番目が毛布で眠る時に使います。5番目が斧。脱出するために船を作る時に木を切るために使います。6番目がロープ。これも船を作る木を縛るために使って、7番目が海図。海に出る時に遭難しないように。8番目が時計で海に出た時に時間の感覚を無くさないように」

ありがとうございます。無人島SOSの回答で一番についてはマッチ。火が一番大事だろう必要だろうということで上げてもらいました。一番大事な物についてはマッチじゃないよという人？マッチ以外に一番大事な物を上げましたという人？だいたい皆さん一番大事な物はマッチですかね。これは「無人島SOS」について一つの体験としてやってもらいましたが、中には一番大事な物は「紙と鉛筆」だという人もいました。その理由については、無人島生活を本にして無人島を脱出したあと出版して大金持ちになるためと話す人もいました。アイスブレイクはいろんな考え方の人がいるのだなということに気付いて大変面白いものです。初対面の人同士でも緊張をほぐしながらコミュニケーションも取れて、とても楽しいゲームです。ありがとうございました。

今度はクイズに入ります。「どんな言葉が入るかな?」「〇〇の2人に1人が △△の3人に1人が 不安定 □□」とあります。さてこの〇△□にはどんな言葉が入るのでしょうか? 〇と△には漢字3文字、□には漢字2文字が入ります。□については難しい言葉かも知れません。では聞きますよ。〇には何が入りますか? ちょっと難しかったですかね。答えに入ります。〇には高校生の2人に1人が、△には大学生の3人に1人が、最後の□については不安定就労と入ります。就労という字は就職の“就”と労働の“労”で不安定就労です。これは何かと言いますと、次のスライドで「若者の離職理由はなんだろう?」とあります。このデータについては、一昨年 2013 年 9 月に厚生労働省が行った調査で高校生の2人に1人、大学の3人に1人が卒業後の就職において不安定就労であるということです。若者の雇用問題の原因は、果たして若者にあるのでしょうか。この若者の離職理由の結果を見ると、一番多い離職理由「労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった」とあります。職業感であったり就業感を養うためのキャリア教育、インターンシップの実施であったり、若者と採用意欲のある企業との接点の作り方に、若者の雇用問題の目を向けられがちかも知れません。しかし、労働時間・休日・休暇の条件がよくなかったという理由が離職理由のトップであるならば、若年層の雇用対策において働かせ方の問題を無視することは出来ません。今回の調査で若者の使い捨てが疑われる企業を対象とした重点監督が実施されまして、5,111 の事業所に対する重点監督の結果、4,189 の事業所、割合にして 81.9% の事業所が何らかの労働基準関係法令の違反があったことが公表されています。このような状況であるからこそ、若い内から世間の常識を当たり前と思いつまなないような常識を疑う目を養って欲しいと思います。

10. 最後に

スライドの最後に「ご静聴ありがとうございました」とありますが、今回の講義で取り上げました青年委員会活動についてはほんの一例に過ぎません。紹介した活動の他にも様々な諸会議へ出席、青年委員会の新聞であります機関紙の発行も行っております。私たち連合山形青年委員会は働いていく中で分からないことは分からない、おかしいことはおかしいと言ひ合える仲間づくり、健康で安心して働き続けられる職場の構築に向けて取り組んでおります。今後皆さんも社会人になられて仕事や人間関係等で悩むことや、または自分自身を追い詰めてしまい、後ろ向きな気持ちで職場を退職するようなことがあっては欲しくありません。大切なことなので何度も同じことを申し上げますが、労働組合の役割は安心して働き続けられる職場環境づくりと労働条件の向上、平等な社会の実現とさまざまあります。その基本となるものが仲間同士の助け合いや、仲間を思いやることです。皆さんも将来の就職活動において勤務先に労働組合があるか無いかについても就職先の選定の一つとして考えてもらえると、皆さんのより良い社会人生活につながるのかなと思っております。本日はどうもありがとうございました。